

かけはしコラム

1月号

家庭と地域との心の架け橋を目指し、
子どもとの関わり方の一助となる言葉を発信していきます
～ ネット環境より魅力的なものは… ～

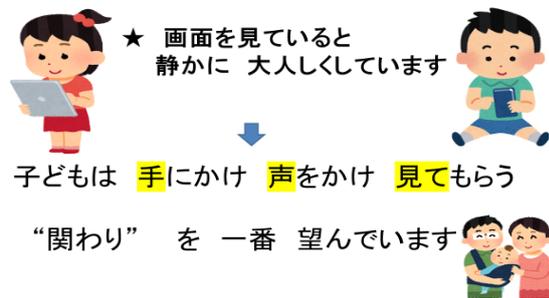
「ゲームばかり…」どこの相談場面でも聞かれること
です。一見ひとりの姿に見えますが、ネット環境の中にはゲーム仲間が「集まり」「チーム」「競って」いる場合も多いです。時には、世界をつないでます。自分のお気に入りキャラクターがどんどん強くなったり、レアなアイテムが揃ったりします。ゲームの中で、仲間に「スゴイ!」と言われれば、日頃勉強もスポーツも秀でることができない子にとってどれほど心地よい声かけてしょう…。今どきの子どもは、「リア友(リアルな現実の友達)」と言って対面で出会う友人とネット環境の仲間を分けながら自分の存在を確認している子もいるほどです。コロナ禍は、子どもが一番望む三密を避けることを強いて三年です。デジタル化も加速し、便利と反対のリスクもいっぱいです。ひと晩で、いじめ被害もあるかもしれません。



危険な ネットの海



スマホに 子守りをさせないで



子どもは、いつも自分を見てほしいです。かまってほしくて、怒られることまでし
て気を引きたい子もいます。お利口にできる時は少なく、叱られることの方が多いかも
しれません。子どもは未熟なので、失敗を繰り返し成長します。家庭・地域・園や学校
すべての大人で、子どもの「成長発達」を「支持」していきましょう。小さな成功は自信
になります。

ゲーム依存が解消されるきっかけは、「子ども自身が目標を見いだせること」だそう
です。ネット環境より上回る家庭環境の居心地の良い関係性、安全安心な園や学校
生活が整うとストレス発散のためのゲーム依存から、自然とルールを守ってゲームが
できるようになるそうです。人が人でしかできないこと…子どもが待っています。